

2025年4月実績概要（メモ）

（2025. 5. 29）

春の定修期間の合間となり、エチレンほか、各誘導品の生産も全般的に増加が見られる。

1. 生産動向

イ) エチレン 451, 900トン

前月比 + 1.4% (+ 6, 200トン)

前年同月比 + 14.5% (+ 57, 400トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	—
定修要因等	—	+ 20.3%
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 4.6%	▲ 5.8%
生産増減率	+ 1.4%	+ 14.5%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 75.1%* → 当月 78.6% ← 前年同月 82.7%

定修プラント：前月 なし → 当月 なし ← 前年同月 2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の減少がある中、定修規模差等から LDPE、PP、SM、塩ビ樹脂、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの12品目がプラス。HDPE、EGなどの5品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から、LDPE、HDPE、SM、塩ビ樹脂、EG、ベンゼン、トルエンなどの14品目がプラス。AN、キシレンなどの3品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数減少があったが、定修規模差や稼働率要因から LDPE、PP はプラス、HDPE、PS はマイナスとなった。

前年比は、LDPE、HDPE、PP、PS ともに定修規模の縮小等もあり、いずれもプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費のマインドとしては、前月に比べて、暮らし向きや雇用環境、耐久消費財の買い替えの判断などで下向きの動きが見られ、物価の上昇もあいまって、マインド自体は弱含みとなっている。国内の生産活動の面では、前月の3月はかろうじて前期比で増加が見られ、4月の予測でも情報通信機械、石油製品などの業種での増加が見込まれているが、生産活動のトレンドとしては横這いの傾向が続いている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、LDPE はプラス、PS は微増、HDPE、PP はマイナスとなった。前年比は LDPE、PS は若干の増加が見られたが、HDPE、PP はマイナスとなった。

分野別の出荷状況としては、フィルム等の包材関係は、前年比でみると、LDPE、HDPE はわずかに前年を上回ったが、PP、PS は下回る事となった。包材以外の分野では、当月は、PP の射出成形分野や中空成形分野、PS の電機・工業分野、雑貨・産業分野のみが前年を上回る出荷に留まった。

ハ) 輸出

米国と各国、地域間の関税交渉が進む中、先行きが見通せない状況が続いている。樹脂の輸出は、前月に一時的に増加が見られた LDPE、HDPE は、当月は減少し、PP、PS は増加が続いている。

前年比は、LDPE、HDPE、PS はプラス。PP のみはマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP で増加し、PS のみは減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、PS は低下、PP は横這い、HDPE は大きく上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE は高め、PP、PS は幾分高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LDPE	+ 1, 200	3. 6	3. 5
HDPE	+ 11, 800	4. 2	4. 8
P P	+ 20, 200	3. 1	3. 1
P S	▲ 300	2. 1*	1. 9

前月からの修正を*で付記

以上